

絵本とイクメン

高松市美術館で4月15日から5月28日まで、「絵本のひきだし 林明子原画展」が開催されていました。札幌に赴任していたころ、子どもたちが寝る前に時間があると絵本の読み聞かせをしていました。そして、林明子さんの多くの絵本を子どもたちからのリクエストにより、何回も繰り返し読んだ記憶があります。その意味では、私の子育て時代に大変お世話になった絵本作家のひとりであり、今回の原画展は本当に懐かしく、若いころの情熱がよみがえってくるような気分で楽しく鑑賞させていただきました。

絵本作家林明子さんは、40年前に初めて手がけた物語絵本「はじめてのおつかい」をきっかけに、「はじめてのキャンプ」、「ぼくはあるいたまっすぐまっすぐ」、「おつきさまこんばんは」、「こんとあき」など数々の名作を次々と生み出されています。林さんの絵は、人や動物では心のちょっとした揺らぎまで伝わってくるような、また、草花や木などの植物では葉っぱの硬さやみずみずしさまでわかるような、繊細でありながら生々しいタッチで描かれています。本を開き絵をパッと見ただけで、子どももすぐに感情移入ができる優しく温かい絵です。同時に私の頭の中でも想像が膨らんで、ページをめくる時のワクワク感は格別のものでありました。一冊の絵本を媒介に子どもたちと共通体験を持てたことは貴重でありがたいものでした。

ところで、読み聞かせをしていた、と言うと「イクメンですね」と褒められます。ただ私の場合は、転勤族で知り合いもあまりおらず、育児の分担も必要に迫られてという面が強かったように思います。それでも、子どもたちをお風呂に入れたり、読み聞かせをすることによって、子育ての喜びと父親が子育てに参加することの重要性といったものは感じることができました。

高松市ではこのほど、6年前に作成した四国で初めての父親手帳「ようこそイクメン道場へ」に続く「夫の出番 パパの出番」という冊子を作りました。新たに男性の育休取得を応援するイクボス情報を紹介するなど、社会全体で父親の「ワーク・ライフ・バランス」を後押しするといった趣旨を盛り込んでいます。ホームページからもダウンロードできますので、多くのお父さんに参考にしていただけたら幸いです。